



HIROSAKI
UNIVERSITY

弘前大学 震災研究交流会

第13回



弘前大学のネットワークで震災研究を広げよう。

日時 2012年10月9日(火) 18:00~

場所 コラボ弘大8F 八甲田ホール

司会 檜 貢 弘前大学大学院地域社会研究科長

18:00~18:50

津波被災地の社会的被害の分析と課題

~岩手県野田村の事例から

三上 真史 弘前大学大学院教育学研究科1年

18:50~19:40

大規模災害時の外国人被災者への情報伝達について考える

~「やさしい日本語」は阪神淡路・新潟県中越・東日本大震災でどう使われたか

佐藤 和之 弘前大学人文学部教授

19:40~20:00 意見・情報交換

※震災対応や震災研究に興味のある方はどなたでも参加・聴講できます。

※当日、報告の後に、震災に関する情報・意見交換を行います。

情報をお持ちの方はこの機会にご紹介ください。

※連絡会終了後、有志の懇親会を予定しています。

第12回震災研究連絡会は、2012年9月11日(火)に行われた。

発表内容は以下の2題。

「東日本大震災に係る震災復興支援が生み出す地域社会の復元力形成に関する研究」

檜 貢 (弘前大学大学院地域社会研究科長)

檜発表では、大学院地域社会研究科の今後の研究方針と方向性を示した。同研究科の目指す震災研究は、震災研究交流会を軸に、学内だけでなく地域社会を巻き込んだプラットフォームを築き、青森県地域の復興研究にこだわることで、被災地と非被災地とが協力しあいながら地域の自治が発展してゆく復興過程を捉えることができる。非激甚被災地に注目することで、よりきめ細かな、いつでもどこでも応用しうる復興のモデルを提示できるという、今後は自治体間支援を中心に、他大学と連携して被災地支援の実態とその構造的把握の研究も進めていくという。

「青森県における災害時の歴史資料保存」 白石 睦弥 (弘前大学特別研究員)

白石発表では、阪神・淡路大震災を契機に設立された、歴史資料ネットワークの活動や、東日本大震災に対応した宮城歴史資料保全ネットワークの事例を参考に、資料保存の必要性を述べた。歴史研究者と行政・地域住民の間に、歴史資料や文化財に対する認識の違いがあることを指摘し、ひずみ集中帯(地殻変動によるひずみが集中している地域)のある日本海東縁に位置しながら、青森県には資料ネットワークがなく、予防的なネットワークの構築が望まれるという。

また、奥村弘氏の言葉を引用して、地域歴史遺産について、地域に「ある」ものではなく、歴史研究者と地域住民が共同して価値づけることによって歴史遺産に「なる」ものだと位置づけた。

☆震災研究交流会は『それぞれの3.11』刊行を計画しています。みなさまのご協力をお願いいたします☆

第14回交流会は2012年11月11日
18:00~、コラボ弘大 八甲田ホール
にて開催予定

【連絡先】

弘前大学大学院地域社会研究科
檜貢研究室(教員室2)

Tel 0172-39-3938 (内線 3938)

Mail himaki at cc.hirosaki-u.ac.jp